

研究に参加しPET・MRI検査を受けた皆様へ

(臨床研究に関する情報)

この研究は、過去に実施された別の臨床研究課題で得られたデータをまとめて解析することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」により、対象となる方のお一人ずつから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開することが必要とされており、この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先：窓口」へご照会ください。

[研究課題名] 脳内ドーパミン生成能、トランスポーターおよび受容体の関連性に関する研究
(期間:2019年3月18日～2027年3月31日)

[データ解析の対象となる研究課題名]

- (1) 11-003 [^{11}C]DOPAおよび[^{18}F]FE-PE2Iを用いたドーパミン生成能およびドーパミントランスポーター機能の測定再現性に関する研究
- (2) 12-003 マジンドールによるドーパミントランスポーターへの作用に関する研究
- (3) 12-021 抗精神病薬リスペリドンの脳内ドーパミン前シナプス機能への影響に関する研究
- (4) 11-021 インターネット依存傾向と脳内ドーパミン神経伝達の関連についての研究
- (5) 08-004 ドーパミンD2受容体部分アゴニスト抗精神病薬(アリピプラゾール)の脳内ドーパミン生成能への影響に関する研究
- (6) 抗精神病薬の脳内ドーパミン生成能への影響に関する研究

[研究機関] 量子科学技術研究開発機構 量子医科学研究所

[研究責任者] 高畑 圭輔(脳機能イメージング研究センター)

[研究の目的] 神経伝達物質の一つであるドーパミンは、認知機能や運動機能に重要な役割を担っています。ドーパミンの神経伝達機能には様々な機構があり、それぞれが相互作用して働いています。本研究は、脳内の様々なドーパミン神経伝達機構の相互作用を明らかにすることを目的としています。

[研究の方法]

- 対象となる方： 上記の(1)から(6)の研究に参加し、MRI検査とPET検査の両方を受けた方
- 利用する研究情報：PET、MRI、心理質問紙、年齢、身長、体重、生活歴
別途実施済みの研究データを使用し、情報取扱いの安全管理された電子システムにより集計します。新たな質問や検査の必要はありません。

[個人情報の取り扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、その他の個人を直接識別できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も対象となる方を特定できる個人情報が公表されることはありません。(国立研究開発法人量子科学技術研究機構個人情報保護規程に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。)

この研究にご自分の研究記録を使ってほしくない(又は代理人の方)は、2019年9月30日までにお申し出ください。ただし、2019年9月30日以降にデータが解析でまとめられてしまった後には個人を識別できない情報は取り除くことができない場合があります。

この調査へのご自分の診療記録の使用をお断りになっても、不利益を受けることは全くありません。

[問い合わせ先：窓口]

千葉県千葉市稲毛区穴川4-9-1

量研機構 QST病院 臨床研究支援課

電話：043-206-4713 平日：9:00～17:00